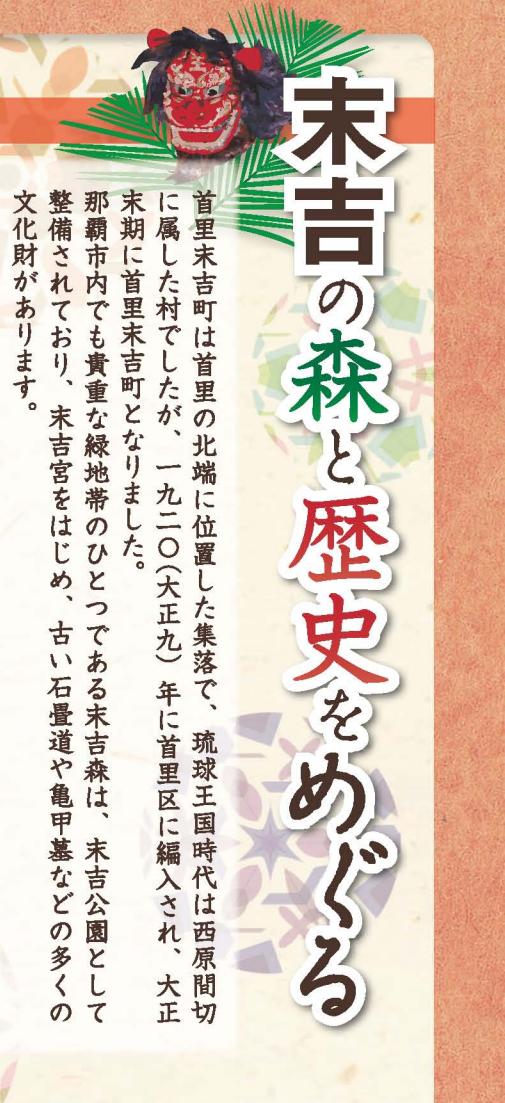


末吉の森と歴史をめぐる

首里末吉町は首里の北端に位置した集落で、琉球王国時代は西原間切に属した村でしたが、一九二〇（大正九）年に首里区に編入され、大正末期に首里末吉町となりました。



山号を大慶山といい東寺真言宗の寺で
した。末吉宮が創建されたときに、それ
を看守する寺として建てられたと記録
されていいます。俗に「末吉の寺」と呼ばば
れ、「組踊」「執心鐘入」の舞台となつた場所
です。また当寺には一四五七年铸造の梵
鐘があり、これも執心鐘入の題材になつ
た鐘とされています。

末吉宮跡

末吉森の北端頂上（末吉山）に位置する琉球八社のひとつで、俗に社壇と呼ばれてています。尚泰久王の頃（一四五四—五六六年）、天界寺住持の鶴翁和尚が、熊野三社権現を迎えたのがはじまりといわれています。祭神は伊弉冉尊、速玉（おのひこ）尊、事解男尊（ことわかひのなごと）です。

弁之嶽（弁ヶ嶽）・識名宮とともに國王による參詣も行われていました。『球陽』によると一八〇三年に宮社が修理されていたことが記録されています。

造・本瓦葺の琉球神社建築で、一九三〇（昭和一二）年に国宝に指定されました。が、沖縄戦で消失し、現在その跡は「末吉宮跡」として国の史跡に指定されています。現在の社殿は一九七二（昭和四七）年に建立されました。境内には旧本殿創建時に造られたものと考えられる琉球石灰岩の磴道（参道）があり、現在は県指定文化財となっています。社殿周辺の崖下には拝所が設けられ、信仰の対象となっています。

末吉宮一帯の丘陵は中国の使者・冊封使から「亀山」とも呼ばれ、この地からの眺望は素晴らしい、はるか海上の島々まで一望できる景勝地となっています。また遠方からは末吉の森を眺めると深い緑の合間に朱色の社殿が美しく映えています。

遍照寺（まんじゅうじ）

末吉宮の下にある寺で、一七六二年の



宣野湾御殿の墓

琉球最後の王尚泰の第二子尚寅を祖とする宜野湾御殿の墓。十八世紀に創建された亀甲墓で王子家の墓の代表格にあたります。当初は具志川御殿（尚貞王第三子尚綱）の墓でしたが、宜野湾御殿へ譲渡されたものです。墓域は四千坪（一一一〇平方メートル）にも及び墓守の住居も置かれていました。去る沖縄戦で墓も



卷之三

A photograph showing a small, rectangular stone monument standing in a field of green grass and low-lying bushes. The monument is weathered and appears to be a simple marker. In the background, there are dense green trees and foliage.



末吉町の北側

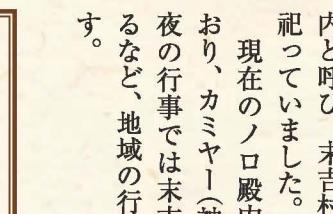
戸が直線上に並んでいます。いずれも古い共同井戸で、岩下から湧く泉をせきとめ、三方から囲むように石を積み上げたもので、石敷きの広場をもつています。最も水量が豊かだったのは西ヌカ一でした。「ウフフイージャー（大樋川）」とも呼ばれました。西ヌカ一は現在も洗濯などの生活用水として活用されています。

末吉ノ口殿内跡

琉球には聞得大君を頂点とする神女組織があり、女性中心の祭祀行事がとりおこなわれていました。首里や首里城の祭祀は「三平等の大あむしられ」と総称される三人の神女が管轄し、地方の間切や村の祭祀は「ノロ」が司祭していました。かつて西原間切に属していた末吉村にもノロがあり、その屋敷を末吉ノロ殿内と呼び、末吉村の御嶽や火の神、殿を祀っていました。



►未吉宮への参道



末吉町の北側の

現在のノロ殿内は集落内に移転して
おり、カミヤー（神屋）が建てられ、十五
夜の行事では末吉の獅子舞を奉納され
るなど、地域の行事で大事にされていま
す。

末吉町 MAP

